

やさしく かしく 元気よく



松原小だより



松小 HP
毎日更新中!

〒365-0043 鴻巣市原馬室2425番地

TEL: 048-542-8450 <https://matubara-e-konosu.edumap.jp/>

児童数 449名(令和8年4月30日現在)

5月号

子ども時代を“満喫”できる学校・家庭・地域

校長 寺島 麗王馬

皆さんの小学校時代は、どんな毎日を送っていたでしょうか。

私は生まれが昭和49年(第2次ベビーブームの頃)なので昭和55年~60年が小学校期にあたり、とにかく子どもが多かった時代でした

残念ながら「授業」の記憶はほぼありませんが、「休み時間」や「放課後」の光景はかなり鮮明に覚えています。校庭にかかとで線を引いてドッジボールをしたり、観察池でカエルの卵やオタマジャクシをずっと見てい

たり、忘れ物の数だけ廊下の雑巾がけ(オレンジ色のワックス)をしたり、教室のTVで先生と野球の日本シリーズを見ていたり(今はNGなのでしょうが…)、今でも映像としてはっきり甦ってきます。

また、放課後も習い事は水曜日のプールと週末の野球だけだったので、他の日は毎日暗くなるまで友達と遊んでいました。クラス対抗の野球(グラウンドの取り合いでしょっちゅうケンカ)や、めんこ・コマ・ヨーヨー、キン肉マン消しゴム、合言葉を作ったの秘密基地、近くの池での魚・エビとり、そしてゲームウォッチやファミコンなど、いくらでも脳内アーカイブとして再生することができます。

思い出はどうしても美しく感じてしまうものですが、少なくとも子ども時代を“満喫”させてもらったことは頭も体もよく覚えています。個々の活動に何か目的があったわけではなく、とにかく目の前のワクワクすること、ドキドキすることに時間を忘れて浸っていた時間だったからでしょう。

このような時間の大切さは、今、目の前にいる松原っ子から「今も昔も変わらないんだよ」と教えてもらっています。休み時間に校庭へ飛び出して夢中で遊んでいる姿、草むらに入ってバツヤやカマキリを捕まえている姿、教室で友達とお絵描きをしたり、図書室で絵本の世界に入り込んでいる姿、汗をかきながら教室に戻ってきて、水をゴクゴク飲んでから、掛け算九九や漢字練習に取り組む姿…。それは40年前と同じ光景です。そんなに簡単に「子どもらしさ」は変わるものではないのです。

別に昭和レトロを懐かしがっているわけではありません。ただ、子ども時代を“満喫”することによって、人としての土台や根っこが出来上がり、中高生や大人に成長していく上でのエネルギーが蓄えられていく、それは私だけでなく、多くの大人が実感として持っている感覚ではないでしょうか。

学校では国や県の方針に沿って学習者用端末を使った学習やICTを活用した授業等も効果的に行っていますし、松原っ子の「使いこなし」も向上しています。ただ、少なくとも小学校期にそれらのツールに“浸らせる”必要はないと思います。成長過程には適齢期や発達段階があるわけで、小学校期にしか学べないことは何なのか、変化の激しい未来をたくましく生きていく上で、この6年間に付けておくべき力は何なのか。「不易と流行」を見極めつつ、子ども時代を“満喫”させてあげられる、そんな学校・家庭・地域でありたいと思うのです。

